

千葉県誕生150周年記念誌

千葉県知事

熊谷 俊人



第78代千葉県議会議員

瀧田 敏幸



千葉県は、明治6年6月15日、当時の印旛県と木更津県の両県の合併により誕生し、令和5年に県誕生150周年という節目を迎えました。この節目を県民の皆様と共に迎えることができましたことに、深い喜びを感じております。

本県は、首都圏にありながら三方を海に囲まれ、豊かで風光明媚な自然を有しております。恵まれた自然を活かし、農業・水産業・醸造業により発展した後、東京湾岸地域に大規模な工業地帯が形成されるとともに、成田空港の開港、東京湾アクアラインの開通などにより、地域経済の活性化がもたらされ、バランスのとれた産業県として発展してきました。県誕生時に100万人ほどであった人口は6倍に増加し、暮らしの中で多様な文化も育まれてきました。

県民の皆様には、150周年を契機に、こうした歴史や先人たちが暮らしの中で大切に守り築き上げてきたものを振り返り、その魅力を再発見するとともに、地域への誇りと愛着を深めていただきたいと考え、県では記念事業を実施いたしました。

松戸市で開催した記念式典を皮切りに、100年後の未来を見据えた本県ならではの新たな芸術祭である「百年後芸術祭」をはじめ、90を超える取組等が県内全ての市町村で繰り広げられ、全体で約230万人に参加いただき、経済波及効果は約171億円となりました。

また、企業や団体等の皆様にも、「ちば150周年記念事業パートナー」として御登録いただき、150周年を盛り上げていただきました。このほか、様々な主体により、これまでになかった新たな連携の動きも生まれました。

令和6年6月、九十九里浜及び勝浦市においてフィナーレイベントを開催し、これをもって記念事業は終了となりましたが、150周年を契機とした取組を一過性で終わらせず、この後につなげていきたいと考えております。

県民の皆様には、この記念誌を通じて県誕生からの150年を振り返り、続いていく未来に思いを馳せていただけたら幸いです。

100年後の未来に向け、千葉県の総力を結集しながら、新しい千葉の時代を切り開いてまいります。

千葉県が、誕生から150周年という大きな節目を迎え、このたび、千葉県誕生150周年記念誌が刊行されますことにつきまして、心よりお祝いを申し上げます。

県の歩んできた長い歴史を振り返る記念誌が刊行されますことは、県民の皆様にとって、県に対する理解をさらに深め、関心を高めていただく上で大変意義深いものと考えております。

この150年の歴史を顧みますと、本県は、明治6年の誕生以来、時代とともに多くの困難に直面しながらも、着実に歩みを進め、豊かな自然と文化、優れた都市機能、バランスのとれた産業構造など、様々な魅力を有する県へと成長をとげてまいりました。

今日に至るまでの発展は、先人たちのたゆまぬ努力と情熱の賜物であり、心から敬意を表し、深く感謝を申し上げます。

この間、私たち県議会は、過去より連綿と受け継がれてきた伝統と歴史の中で、二元代表制の一翼を担う行政のチェック機関としての役割を果たし、県民の

代表として、県民生活の利便性と福祉の向上のため、ひいては県の発展のため、不断の努力と熱意をもって研鑽を重ね、県政に携わってまいりました。

近年、県内を取り巻く環境は、少子高齢化や人口減少、経済構造の変化など、社会情勢が著しく変化しております。また、気候変動による自然災害の激甚化や不安定な国際情勢等が県民生活にもたらす影響への対応など、多くの行政課題にも直面し、適切かつ効果的な対応が求められております。

県議会としましても、県政を取り巻く環境の変化を的確にとらえるとともに、行政と協力し、互いに尊重し合い、活発で充実した議論を通じて、多様化する課題の解決に向けて、全力を挙げて取り組んでまいります。

結びに、150周年を迎えた千葉県のますますの発展と県民の皆様の御健勝、御多幸を心よりお祈り申し上げます。お祝いの言葉とさせていただきます。

千葉県誕生150周年記念事業官民連携会議議長
一般社団法人 千葉県商工会議所連合会 会長

佐久間 英利



千葉県誕生150周年を心よりお喜び申し上げます。また、これまで県民生活を支えてこられた多くの関係者の皆さまに深く御礼申し上げます。

さて、千葉県誕生150周年記念事業では、令和5年6月より1年間にわたり、県内各地で、それぞれの特色を生かした様々な記念行事が開催されました。

私も内房総の百年後芸術祭や九十九里浜での手つなぎイベントなどに参加し、その賑わいを肌で感じさせていただきました。

百年後芸術祭では、内房総の豊かな自然を舞台に、多様な手法を用いて表現される様々なアート作品が展示され、多くの方に感動を与えるとともに、地域の人々にも改めて自分たちの土地の魅力を感じていただけたものと思います。

また、手つなぎイベントでは、九十九里有料道路を4,554人の方が手をつないで列をなす景色は壮観でした。参加された方々には改めて広大な太平洋に面した外房の魅力を感じていただき、記憶に残るイベントになったのではないのでしょうか。

その他にも記念パレードやコンサートなど、様々な行事に県内外から多くの方にお越しいただき、千葉県の魅力を存分にご堪能いただいたことと思います。

この150周年記念事業が県内各市町村や民間企業の連携により、1年間にわたり千葉県各地で行われ、多くの県民に千葉県への愛着と誇りを持てただけたことは素晴らしいことと思います。特に200周年を迎える、未来を支える子供たちには大変インパクトのある良い思い出になったと思います。

この度の官・民並びに多くの県民の皆さまとの広範な連携を、千葉県のさらなる発展のために、皆さまと力をあわせ継続させていきたいと思います。

結びに、150周年記念事業の開催にご尽力いただきました関係各位に心から感謝申し上げますとともに、千葉県のますますのご発展をご祈念いたしましてお祝いの言葉といたします。



総合プロデューサー

小林 武史

PROFILE

音楽家、一般社団法人 AP バンク代表理事。日本を代表する数多くのアーティストのレコーディング、プロデュースを手掛ける。平成15年(2003年)に非営利組織「ap bank」を設立し、環境プロジェクトへの融資や野外音楽イベント「ap bank fes」を開催し、東日本大震災後は復興支援活動に従事する。
令和元年(2019年)から木更津市で農と食のアートが融合した施設「KURKKU FIELDS」を運営し、食の循環を可視化するプロジェクトを進めている。

千葉の豊かな自然・文化資源を活かし、
未来を考える共創の場に

「百年後芸術祭」は、千葉の豊かな自然・文化資源を活かし、東京に近い千葉県から未来を考える共創の場としての芸術祭を目指し、県内6地域で開催しました。音楽、コンテンポラリーダンス、AIを駆使した映像やドローンといったテクノロジーが融合した「通底縁劇・通底音劇」では、通常の音楽ライブの枠を超え、アートとライブエンターテインメントの新たな融合も試みました。

様々な人の思いが重なり、人々の想像力と循環が未来を描く過程を感じることができたのではないかと思います。「百年後芸術祭」を含めた記念事業が未来に続いていくモノ・コト・活動を作っていく機運になればと思っています。



©Mao Yamamoto

総合ディレクター

北川 フラム

PROFILE

アートディレクター、株式会社アートフロントギャラリー代表取締役会長。
アートによる地域づくりの実践として、平成12年(2000年)から「大地の芸術祭 越後妻有 アートトリエンナーレ」、平成22年(2010年)から「瀬戸内国際芸術祭」、平成26年(2014年)から「房総里山芸術祭 いちはらアート×ミックス」、平成29年(2017年)から「北アルプス国際芸術祭」、「奥能登国際芸術祭」などで総合ディレクターを務める。
平成25年(2013年)からは、市原湖畔美術館の館長に就任している。

「千葉県誕生150周年」おめでとうございます。

記念事業の準備の一環として千葉県内のほとんどを回れたことは喜びでした。そこで感じたことは、房総半島が実にゆたかな地域だということです。古代からの集落と更級日記、鎌倉殿以降の江戸湾を巡っての歴史がある。稲作や野菜、果樹の品質がよく、海苔やスズキなどの漁業も元気だ。それらは生活のたしかさとなって文化の充実になっているし、博物館の質も高い。

半島は海の恵みを多く享けています。国土面積は世界第61位でありながら海岸線の長さ第6位という日本列島が、極東の最涯の島国でありながらその文化的成熟においては人類史のウィングを広げてきました。それは北から、大陸半島から、南洋からの文化を受け入れ発酵、成熟させてきたからだと思いますが、千葉県は太平洋を望む、その集約された可能性をもった地域だと深く思っています。